

Respite Stellam, Voca Mariam !



小鳩会通信

～私たちのしていることは大海の一滴にすぎないと感じています。

けれど、もしその一滴がなければ、海はその一滴分、確かに少ないということです。～マザー・テレサ

「共感～ひとに寄り添えるころ～」

校長 野中 豊彦

明星の「小鳩会」の起源は古く100年以上の歴史を有しています。当時ハンセン病療養の先駆けであった私立「神山復生（こうやまふくせい）病院」に対する義援金活動がその始まりです。

神山復生病院は明星の設立母体のカトリック修道会「マリア会」と同郷のフランス人ジェルマン・レジェ・テストウィド神父が1886年（明治19年）、宣教中、一人のハンセン病患者と出会い、社会で放置された同病者の救済を思い立ち、静岡県御殿場の鮎沢村（現在の御殿場市新橋[にいはし]）に家屋を借用して6名の患者を収容したことから始まりました。

その後、病院は神山に場所を移し、現在でも運営を続けています。

当時は、医師も看護師もおらず、異国のカトリック神父が患者たちを介護していました。その神父からの要請で明星の修道士、教員、生徒、保護者が物品の提供をし、苦悩する人々のために学園を挙げての協力が始まりました。

その精神は100年以上経過した今なお受け継がれています。明星の建学の精神はこうした小鳩会活動を通して具体化されていきます。生徒、教職員一人ひとりが会員であり、約1700名の思いを一つにしていけば大きな力になります。

私たちの周りにはたくさんの援助の手を求めている人々がいます。困っている人、助けを求めている人に少しでも役立つことが出来ればこの活動には意味があります。ジュース1本分、アイスクリーム1つ分の我慢が多くの人の笑顔につながります。

先生は、君たちに、行動指針として「自律、共感、挑戦」を掲げます。生徒の皆さんには、共感一ひとに寄り添える心一を育ててほしいと強く思います。小鳩会をはじめとする明星でのさまざまな活動を通して、他者を尊重し、寛く受け入れる心、異文化を尊重する姿勢を育み、さらには社会に奉仕する精神と世界をより良い方向へ導くことへの強い使命感を持つという高みまで目指してほしいと思います。皆さんのすぐそばに困っている人、支援を待っている人がいます。「どうされましたか、何かお手伝いできることはありませんか」の一言を言える人になりましょう。

「人は本当に苦しい時に苦しいとは言えない、本当につらい時につらいとは口に出せない、泣いている人ばかりに気を配るのではなく、泣けない人こそ愛しなさい。」

マザー・テレサ

今年度の小鳩会委員

小鳩会活動は、お金を集めるだけが目的ではなくて、お小遣いでのおやつをひかえて他の人に差し上げる気持ちで献金する、自分の時間を手伝いのために使う、電車の席を譲る…など、自分を差し出して、支えあい、お互いの気持ちが豊かになることに活動の意義があります。日常を小鳩会活動にしてゆきましょう。「六年間、小鳩会委員を続けたい！」など特に希望する生徒が複数あったクラスについては、複数（2名程度）で集合・献金を協力して行うことを了解しています。お互いの自主性を大切に、クラスの皆とも協力しながら活動に取り組んでください。

◆今回の献金期間と献金先◆ 4月28日（金）～ 5月12日（金）

- 若王寺こども食堂
- カリタスジャパン（ウクライナ危機人道支援）

小鳩会委員は、担任の先生と相談して、献金期間のうち都合のよい機会を活用してクラス献金をお願いします。

カリタスジャパン <https://www.caritas.jp/> とは、日本カトリック司教協議会の社会司教委員会を構成する一委員会です。社会福祉活動の推進と国内外の災害援助、開発援助を行っています。（中略）国際カリタスは 1951 年教皇ピオ十二世に認可された社会活動、救援活動団体で、国連経済社会理事会第一級認定の国際赤十字に次ぐ国際 NGO 組織。加盟国 162 カ国。本部はバチカン。

◆戦後、政府の求めに応じて、カトリック教会も援助物資配布窓口として、各地域からの援助物資を戦後復興期の日本国内に配布しました。それが、カリタスジャパンの芽でした。◆カリタス(Caritas)とは、〈無償の愛〉・〈神の愛〉・〈いつくしみ〉という意味のラテン語です。

生徒の皆さんへ

下記のような活動も再開しています。小鳩会の精神を忘れずに、今後ご協力ください。



保護者会募金

各学期に一回ずつを目安に、必要に応じて、保護者会の際に学園聖堂前で校内募金活動をしています。東日本大震災の復興支援のための募金も続けながら、様々な災害の支援に向けた募金活動も行っています。いつも募金に応じてくださり、小鳩会委員一同、感謝申し上げます。暑い日も寒い日もありますが、中学 1 年生から高校 3 年生まで、力を合わせています。



こども食堂ボランティア

聖ヨゼフ宣教修道女会のシスターが中心となって 2017 年より始まった若王寺こども食堂。夏休みとクリスマス会のお手伝いに行っていましたが、今はコロナにより、こども食堂もなかなか活動できないなか、お弁当の配布などできる限りのことをなさっています。このお弁当には、小鳩会献金も活用されています。次号から春休みのこども食堂ボランティアの様子を紹介します。

各自で活動の記録※を保管してください。※小鳩会通信や個別のボランティア実施要項、報告等

近年、進学や就職に際して、これまでのボランティア活動など諸活動の報告を求められることが増えたようです。受験生からは、各自が関わった活動の記録として、小鳩会通信のバックナンバーや活動の詳細について問い合わせもあります。宗教部での記録を照会して、お応えするにはしていますが、各自でも必要と思われる記録は保管してください。就職活動に際して提出書類に記載が必要だということで、卒業生より、過去に参加したボランティア活動についての問い合わせがあった例もあります。